

# 桜川文芸

## 俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】

少しだけ生き方変へて冬ごもる

鈴木 たか子

初雪や独りワインの禁を解く

小林 啓治

妻見舞ふ窓の日に映ゆ冬リンゴ

萩原 勅彦

白鳥の胸悠然と湖を分かつ

藤田 凡鐘

とろろ汁ひとりに余る寒の明け

小林 フク

うす紙のやうな昼月野火あがる

三代 みちよ

機織の符合にも似て毛糸編む

若色 寿美女

ぼんやりと過すひと日や路のとう

仁平 房女

母逝きて早三年や沈丁花

金田 とう女

農足袋の音立て歩く霜柱

渡辺 いし

春立ちて庭の飛び石並らべ替え

入山 ひろ子

初雪の真綿のやうに里の山

上野 芳江

すこやかな友の証の賀状来る

永瀬 ちい

繕へば物生きてくる針起し

細谷 充女

夕早く灯してあたり三の午

萩原 きしの

【茂山俳句会】

日脚伸ぶ陶器の猫の首長し

泉 健作

潮騒の音に暮れゆく野水仙

田崎 信子

一羽翔ち連れ翔ち鴨の陣細る

植田 祥雲

捨てきれぬ思ひ多々あり冬帽子

松崎 いま

夜泣き子と体温分かつ寒の雨

井坂 洋子

教へ子の会釈眩しきコートかな

鈴木 ノブ子

小刻みに揺れる薺や登り窯

吉原 秀子

つくばひの水柱ゆるびし日の光

今井 繁子

待春や大草鞋吊る村境

海老沢 静夫

父母を越えし齡の春を待つ

大関 くに

片減りの靴も磨きて春を待つ

宮本 芳江

如月や疾風吹き入るくぬぎ山

海老沢 幸子

八十の心に撒きし年の豆

鶴見 菊江

藪椿すこし紅刷くおちよぼ口

竹林 てる

海鳴りの音に目覚める初旅行

向後 礼子

やをら立つ人の氣息も寒の入

飯山 昭

【一般投稿】

沈みつゝ、炎いあがる日や寒椿

廣瀬 宣

## 短歌

【一般投稿】

父が書で思いを伝えし和光同塵還暦になりて偲びつ想う

榎野 恭子

人影のなき駐車場に終電の夫を迎えばやさし三ヶ月

柴 せつこ

わが庭は松竹梅も南天も福寿おもとといつも正月

木下 善信

## 俚謡

【さくら謡会】

やなぎ芽をふくつくしのほどり

水に輪をかく春の風

やっど握った手と手のぬくみ

恋はこれから春になる

招く雌雛の笑顔に惚れて

緩む財布のひな祭り

つく志 輝美

稲葉 建正

田 哲人

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ